

宮前ガバナンス5月号

寄稿 認知症は早期発見、早期治療が大事。まずは相談を！

川崎市議会議員 石田やすひろ

日本医科大学武蔵小杉病院内の「認知症疾患医療センター」を視察しました。文部科学省からの補助を受けた「街ぐるみ認知症相談センター」を設置しています。認知症街ぐるみ支援ネットワーク研究代表の北村伸氏より、認知症対策の課題と取り組みについて話を聴きました。認知症患者は高

齢化の進展と共に増加傾向にあります。正しい理解と関係機関との連携が重要だと語っていました。アルツハイマー病の症状は主に、記憶障害(もの忘れ)、理解力の低下、判断力の低下、実行機能低下の4つです。65歳以上の25%が認知症とその予備群だと推定されています。問題は自覚がないことです。確かに、高齢でない私も、もの忘れの経験はあります。症状が重なるようだったら、まず、かかりつけ医に相談し、専門医を紹介してもらうことをセンターは薦めています。

川崎市立大蔵中学校卒業、明治大学大学院(公共政策修士)修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在4期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず新聞や広報誌を作成しその内容について随時的に市政報告を実施。

北村氏は「重要な事は認知症の人と家族を支えるネットワークが街に出来る事」だと話します。また、人とコミュニケーションを取りやすい環境であることは、認知症にならないための重要な事だと言います。増加傾向にある患者や早期発見のための対応として、行政・医療・福祉間の連携が求められています。相談体制の拡充は行政も含め、重要な役割であることを感じました。



川崎市立大蔵中学校卒業、明治大学大学院(公共政策修士)修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在4期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず新聞や広報誌を作成しその内容について随時的に市政報告を実施。

市議会議員 石田やすひろ

街ぐるみ認知症相談センターには、臨床心理士3名が在籍。ここには、本人の他、家族の相談にも応じています。相談活動の実績は来場者数5136名(1489日)、1日あたりにすると3・5名。電話での問い合わせ件数は1588件

今月の1枚



街ぐるみ認知症相談センターには相談席や個別用のコンピュータが置かれていました